

●グローバル・ラップ（日本大型株式ファンド）

（マザーファンドの投資一任先：JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社）

（データは2012年1月31日現在）

〔純資産総額〕 2.07億円

〔基準価額〕 6,318円

〔決算日〕 原則3月25日

〔信託期間〕 無期限

〔設定日〕 1998年5月29日

<運用担当者のコメント>

◎当月の運用概況

1月の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が前月末比プラス3.66%となりました。当月は、予想を上回る米国の経済指標の発表から米国の景気回復期待が高まったことや好調な米国企業の決算発表などを受けて、全般的に買いが優勢でした。また、国際通貨基金(IMF)が融資能力を増強すると発表したことなども支援材料でした。ただ、2011年10-12月期の日本企業の厳しい決算数字が相つぎ発表されたことから、月末にかけて上げ幅を徐々に縮めました。東証33業種分類では、医薬品、情報・通信業など5業種が下落した一方、28業種が上昇しました。

経営自由度の向上へ期待が高まった食品株の保有などはプラスに働いたものの、株価が大きく下落した電気機器関連株の保有などがパフォーマンスの足を引っ張りました。

◎今後の運用方針

米国では、非農業部門雇用者数が前月比20万人増加するなど、雇用統計をはじめ主要経済指標で改善を示すものが相次ぎました。また連邦準備制度理事会(FRB)のコメントを受け、市場では量的緩和第3段(QE3)観測も再び高まってきています。また欧州問題についても、12月に実施した欧州中央銀行(ECB)の3年物資金供給オペ(LTRO)を受けて、金融システム不安に対する過度の警戒感が後退しています。一方、国内については、タイの洪水で受けた影響からの回復、そして復興需要の本格化が見込まれることから、今後の経済、企業収益の改善が期待される状況です。欧州問題の根本解決には依然遠く、懸念が再燃する可能性が高い事もあり、国内株式市場も引き続き海外市場動向の影響を受けやすい状況が見込まれますが、国内市場を巡るファンダメンタルズは相対的に良好です。このような市場環境下では、徹底的な情報収集、分析を行い、中長期的な企業の収益力を見極め、株価が割安な水準にあると判断される銘柄に投資を行うことが中長期的に良好なパフォーマンスをもたらすものと考えています。

<資産構成比>

株式	98.6%
うち先物	0.0%
CB	0.0%
公社債	0.0%
現金その他	1.4%

<国内株式組入上位5業種>

	業種	比率
1	輸送用機器	12.1%
2	電気機器	11.2%
3	情報・通信業	10.7%
4	銀行業	8.6%
5	化学	6.7%

※「国内株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」は、マザーファンドの状況です。

※「資産構成比」「株式組入上位10銘柄」の比率は対純資産総額、「国内株式組入上位5業種」の比率は対組入株式時価総額です。

※「分配金実績」の分配金は、1万口当たりの実績です。

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

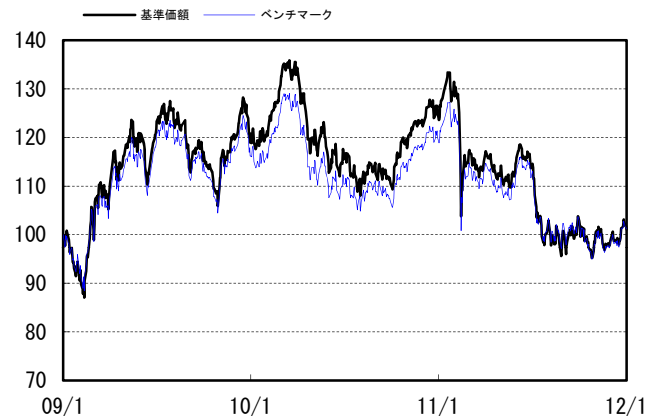
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-1.71%	-11.10%	-18.26%	1.06%	-34.89%
ベンチマーク	-1.66%	-9.46%	-14.93%	1.15%	-26.44%

※基準価額の騰落率およびグラフのデータは分配金（税引前）を再投資し計算しています。

<分配金込み基準価額の指数化グラフ> (2009年1月30日を100として指数化)



※ベンチマークは、日興バーラ・スタイル・インデックス（日本大型株式）です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。

※基準価額は、信託報酬（年率1.386%（税抜1.32%））控除後の値です。

<分配金実績（税引前）>（円）

07/3/26	08/3/25	09/3/25	10/3/25	11/3/25
100	0	0	0	0

<株式組入上位10銘柄>（銘柄数 88銘柄）

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.09%
2	日本電信電話	情報・通信業	3.91%
3	日産自動車	輸送用機器	3.47%
4	日本たばこ産業	食料品	3.22%
5	本田技研工業	輸送用機器	2.91%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.70%
7	KDDI	情報・通信業	2.58%
8	住友商事	卸売業	2.48%
9	大塚ホールディングス	医薬品	2.30%
10	東京瓦斯	電気・ガス業	2.19%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資家の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

2012年1月31日現在

■お申込メモ

- 商品分類 : 追加型投信／国内／株式
お申込単位 : お申込単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
お申込価額 : お申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間 : 無期限（1998年5月29日設定）
決算日 : 毎年3月25日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配 : 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
ご換金価額 : 換金請求受付日の翌営業日の基準価額
ご換金代金のお支払い : 原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係 : 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■手数料等の概要

- ：お客様には、以下の費用をご負担いただきます。
＜お申込時、ご換金時にご負担いただく費用＞
・お申込手数料：申込時におけるお申込手数料はありません。
・換金手数料：ありません。
・信託財産留保額：ありません。
＜信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用＞
・信託報酬：純資産総額に対して年率1.3860%（税抜1.32%）を乗じて得た額
・その他費用：組入価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息など
※その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※当ファンドの手数料などの合計額については、投資家の皆様ที่ファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

- 委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社
投資顧問会社 : JPMorgan・アセット・マネジメント株式会社
日興グローバルラップ株式会社
日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社 : 野村信託銀行株式会社
販売会社 : 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
〔ホームページ〕<http://www.nikkoam.com/>
〔コールセンター〕0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

2012年1月31日現在

為替変動リスク

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資家の皆様に「グローバル・ラップ」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認くださいのうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **日興アセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：社団法人投資信託協会
社団法人日本証券投資顧問業協会

お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	社団法人日本証券投資顧問業協会	社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○